

Sincerity[®]08

校長 菊田勇雄

沈めたり浮せたりして柚子湯かな (今橋浩一)

12月22日は二十四節気の一つ「冬至」でした。北半球では一年で最も昼が短く、夜が長くなる日です。冬至は太陽の力が一番弱まる日であり、この日を境に再び力が甦ってくることから、古来、世界各地で冬至の祝祭や風習が行われてきました。日本では冬至にかぼちゃを食べる習慣があり、この日に食べると風邪をひかないと言われています。かぼちゃは栄養も豊富で、実を割ると鮮やかな黄色が現れることから、太陽の力を助ける意味もありました。また、冬至に柚子の実を湯船に浮かべた風呂呂に入る習慣は、血行の促進と風邪の予防に効果があるとともに、その香りや薬効で体を清める禊ぎの意味もあったとも言われます。当日、我が家では夕食に小豆と一緒に煮たかぼちゃが出され、甘くホクホクしたかぼちゃを食べました。また、今年も庭の柚子の木が黄色い実をつけ、当日はその実を湯船に浮かべ香りを楽しみました。冬至を境に日が伸び、季節は春に向かいますが、本格的な寒さはこれからです。体調管理に留意し、美味しいものを食べて、この冬を乗り切りたいと思っています。



活動優秀校公演に想う

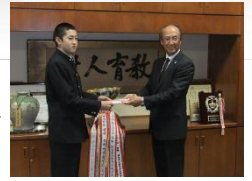
12月15日、福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演が南相馬市民文化会館において開催されました。この公演は、文化芸術活動に取り組む高校生の姿を通して、「福島の元気」を発信し、復興の一助となることを目的としています。2015年の会津に始まり、いわき、県南、県北を巡り、今回の相双地区で県内を一回りするようになります。本校からは相馬太鼓部と吹奏楽部がステージ発表に出演し、生徒会役員、出版局、美術部の生徒が企画運営等に携わり役割を果たしてくれました。数々のステージ発表はどれも素晴らしく、作品の展示発表は質の高いものばかりでした。フィナーレでは生徒全員がふくしま総文のイメージソング「思うがままに」を歌い、大ホールは感動に包まれました。とりわけ印象に残ったのは、生徒実行委員の生徒たちが作成した映像作品です。現在の相双地区をしっかり見つめ、後世に正しく伝えるため、双葉郡を2日間にわたり取材した映像をまとめたものです。生徒たちは同じ相双地区でありながら、まるで違う世界を目の当たりにして虚無感を感じるとともに、被害の深刻さを実感します。その一方で双葉郡の人たちが震災を後世に伝えようと語り継ぐ姿や懸命に復興させようとする姿に勇気を与えられます。そしてこの体験をもとに、あらためて震災の記憶を未来に繋げていこうと決意します。震災から9年あまり、県内では震災前の生活に戻っている方々がいる一方で、震災で家族を失い、避難を余儀なくされ、震災の影響をいまだに受けている方々もいます。また、被災地のイメージを払拭したいと思う一方で、復興について情報発信すればするほど、被災地のイメージが固定化してしまう自己撞着の問題もあります。しかし、生徒たちは震災後の相双地区が抱える様々な矛盾を若い感性で受け止め、葛藤しながらも克服する決意をしていたように見えました。その純粹でひたむきな姿に胸が熱くなったのは、私だけではなかったでしょう。この日は相双地区の高校生の可能性を実感した一日でした。

令和元（2019）年12月25日

春高バレー決戦近づく!

第72回全日本バレーボール高校選手権大会（春高バレー）が近づいてきました。本校は1月6日の2回戦から出場します。対戦相手は佐賀学園と駿台学園の勝者です。当日は相馬からバス5台に分乗した応援団が会場の武蔵野の森総合スポーツプラザに駆けつける予定です。選手諸君には Motto であるファイティングスピリッツ・フェアプレイ・フレンドシップの3Fを心に刻み、代表決定戦で見た積極性と粘り強さを発揮して欲しいと思います。郷土の期待を胸に躍動する若駒たちの勇姿を楽しみにしています。

JA 全農福島からお米の目録を贈られる福島陽斗主将



大学教授による課題探究型ワークショップ

12月4日、大学進学ミッション支援事業に係る大学教授による課題探究型ワークショップが行われました。講師に会津大学の杉森大助教授をお招きし、理数科1年生を対象に「プログラミングの基礎演習」をテーマに講義・演習がありました。その内容は会津大学1年生の講義・演習と同じものでした。AIやIoTの普及により、今後ますますIT技術を身につけた人材が求められるようになります。生徒諸君はプログラミングの基礎知識について耳を傾けるとともに、演習を通じて理解を深めました。



中学生科学実験教室

12月7日、本校主催の中学生科学実験教室が行われました。中高連携事業として今年で16回目を迎えたこの教室は、実験の面白さを体験し、自然科学に対する興味関心を高めて貰うことを目的に行われてきました。当日は近隣の中学校から34名の参加者がありました。私からは、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏が、小学生の時に担任の先生から薦められて読んだファラデーの『ロウソクの科学』をきっかけに化学を志すことになったことを紹介し、心に浮かんだ「なぜなんだろう?」「どうしてなんだろう?」という疑問を大切にしたい旨を伝えました。参加者は二班に分かれ、化学と物理の実験を交互に体験しました。化学では中和滴定の実験が行われ、物理では振り子による重力加速度の測定を行いました。それぞれの実験は高校の授業内容でしたが、科学部の生徒と理数科の1・2年生が工夫し、中学2年生にも取り組めるようしました。参加者からは「高校生が分かりやすく教えてくれて楽しかった」「高校で習う内容は難しかったが、実験をすると理解でき興味をもった」「相高に入りたかった」といった感想が聞かれました。



校内授業研究 Part 2

【12/2】中川こずえ先生の生物の授業は、期末考査の問題の解き直しをグループワークで行うユニークなものでした。生徒たちは、コピーした未採点の状態の解答用紙を使い、問題ごとの正答率を参考に組み合わせ問題の優先順位を考え、協議しながら答えを導き出していました。



【12/4】立野陽平先生の日本史の授業は、戦国大名の領国支配がテーマでした。グループごとに戦国大名ランキングを予想したり、ピラミッドチャートを活用し分国法の重要度の順位を考えたりするなど、興味関心を高め、思考力を育成する工夫が随所に見られました。



首藤花央先生のコミュニケーション英語Ⅱの授業は、ブログの内容を丁寧に把握させた後、グループに分かれてQ&Aの活動を行うものでした。生徒は学習活動に引き込まれ、行い工夫が見られた展開力のある授業でした。



【12/5】鈴木千尋先生の現代文の授業は、川上弘美の「神様」と2011年3月11日以降に書き直された別の「神様」を読み比べ、登場人物の心情を読み取らせ、多様性について考えさせる授業でした。生徒たちは小説を味わう楽しさを知り、寓話の魅力について学びました。



横山義彦先生の保健体育は、2年生女子がバスケットボールに取り組む授業でした。ウォーミングアップからゲーム運営まで生徒たちが主体となり行っていました。和気藹々の雰囲気の中、運動が楽しくて仕方ない生徒の様子印象的でした。



【12/6】松岡浩三先生の2年物理基礎の授業では、力学的エネルギー保存の法則を用いて、振り子の最下点から投げ出された小球の落下地点を計算で予測するとともに、実験で得られた実測値と比較するものでした。生徒たちはグループごとに実験を行い、積極的に授業に取り組んでいました。



〈続く〉

同窓生列伝⑧ 折笠晴秀 (1885-1965) 続編

～相馬の育英事業の支援を受け勉学に励んだ折笠～

明治36（1903）年、折笠は旧制相馬中学を卒業し、旧制第一高等学校大学予科に入学しました。当時、帝国大学に進学するには、高等学校で予備教育を受ける必要がありました。同年8月1日付け「福島民報」には、高等学校大学予科に入学する本県出身者の氏名が掲載されており、一高入学者12名の中には折笠とともに、同級生の齋藤豊吉、門馬末治の氏名もみられます。一高入学者の4分の1を相馬中学卒業生が占めました。

ところで、折笠をはじめとする相馬中学第一回卒業生の進学先は、県内でも話題となり、9月2日付け「福島民報」は、『県当局者は勿論相馬人士の頗る注目する所なりしが、本月までの調査によれば五十五名の卒業生に対し三十一名の成功者を見るに至れりて、地方の喜び一方ならずと云ふ。』と伝えています。さらに『相馬の将来実に見るに余りあるに尚一層の勢力を興へたるは、相馬育英社は五千圓の資本を以て卒業生に対する貸金法を設けたりと云ふ』と述べ、相馬育英社による奨学金制度について紹介しています。この相馬育英社は、同年6月に相馬中学卒業生の中から優秀な人材を選抜し、高等教育を受けさせるため創設された「相馬育英会」を指すと思われる、運営資金を旧相馬領内の住民からの寄付金と、有志による大口の寄付金に頼りましたが、計画通り集まらず、旧中村藩主相馬家から資金を援助されています。また、在京の相馬出身者が設立した相馬奨学会は、相馬家が拠出した資金をもとに学生に学費等を貸与しました。また、相馬家は郷里の学生のため寄宿舎を設け、相馬奨学会に無償貸与しています。こうして明治40年に「相馬育英会」が東京小石川に開設され、最初の舎生には折笠など19名の学生が名を連ねました。若き折笠は相馬の人々が始めた育英事業の支援を受け勉学に励み、やがて東京帝国大学医科へ入学を果たしました。

1 学年進路講演会

12月3日、「1学年進路講演会」が行われました。講師に山形大学エンrollmentマネジメント部教授の門馬甲兒氏をお招きし、「二つ先を見据えた合格へ」を演題に、大学進学の意味、会社が求める人材とは、入試対策、高校生活ですべきことについてお話をいただきました。印象的だったのは、「人口減少社会に突入した我が国で今後求められるのはどのような人材か」「これから社会に出るために身につけておくべき資質・能力は何か」という問いかけでした。生徒たちは熱心に耳を傾け、高校時代にすべきことを学びました。



1 学年課題研究発表会

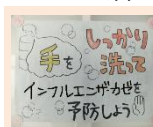
12月12日、1学年課題研究発表会がありました。イノベーション・コースト構想人材育成事業に係る取組として行われ、エネルギー問題や環境問題、社会問題に至る幅広い分野から課題を設定し、調べたことや自分たちにも求められる取組について、まとめた上で発表するものです。各クラスからそれぞれ選ばれたグループがパワーポイントを使って発表しました。また、ブリティッシュヒルズ英語研修に参加した生徒による英語のプレゼンテーションも行われました。高校生らしいユニークな発想が随所に見られ、有意義な発表会となりました。最後に来賓のNPO法人カタリバの長谷川勇紀さんから講評をいただきました。発表テーマは以下のとおりです。

1組「地球冷却化計画」、2組「あの日知ったAIの怖さをまだ僕たちは知らない」、3組「日本の現状と未来」、4組「建築と環境問題」、ブリティッシュヒルズ研修参加者「LGBT」



ある朝の風景より

12月に入り朝の冷え込みも厳しくなってきました。冷たい北風が校舎を取り囲む木々の葉を落としています。出勤時の私は手袋とマフラーが手放せなくなりました。そのような折、毎朝、陸上部の生徒諸君が竹箒を手に落葉の掃き掃除をしてくれています。学校に敷地だけではなく、周囲の道路の落ち葉まで集めていました。一生懸命な姿に思わず写真を撮らせてもらいました。寒い中、環境整備のためありがとうございます。きれいになったアスファルトの地面のように、私の心も清々しい気持ちで満たされました。



インフルエンザが流行期に入りました。規則正しい生活を心がけ、体調管理をしっかり行い、インフルエンザに罹らないように注意しましょう。

